地域医療センター地域医療連携通信

にじ

Kochi Health Sciences Center

高知医療センター各局による（看護局・薬剤局・医療技術局・栄養局・事務局）クリニカルインディケーター（C.I.）2013

・・・・・ P2～P5

11

■ 日本急性血液浄化学会認定の指導者(128号)に認定されました。
（臨床工学科　岡田 恒典 技士） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P6
■ 学会出張報告　第61回日本心臓病学会学術集会in熊本
（循環器内科　福岡 陽子 医師） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P7
■ 高知医療センター・イベント情報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P8

NOVEMBER.2013 Vol.97

10月12・13日に城西公園にて開催された「RELAY FOR LIFE KOCHI」に、当院職員が参加しました。

高知医療センターの理念　　医療の主人公は患者さん

C.I. 2013

高知医療センター各局（看護局・薬剤局・医療技術局・栄養局・事務局）による

クリニカルインディケーター

薬剤局における「医療の資質向上への取り組み」について　薬剤局長　服部暁昌

薬剤局では、より専門性の高い臨床薬剤師の育成を図り、院内において薬物療法が安全でかつ適性に実施できるよう支援するために、様々な取り組みを積極的に行っています。また、昨年度からは、それらの取り組みの一部について客観的に評価する指標（クリニカルインディケータ）を設定し、薬剤局の業務の達成状況を確認しています。

表に平成24年度までの薬剤局のクリニカルインディケータの経時的な推移を示しました。薬剤管理指導については、件数および指導実施率を指標とすることによって病棟での薬剤業務がどの程度実施できているかを評価しており、入院患者さんに対する薬物療法の支援状況を確認する情報として利用しています。平成24年度は、前年度の職員の退職者の補充ができず、薬剤管理指導の実施件数がやや減少しました。また、同時に入院患者の増加に伴い、実施率は平成23年度67.1%から平成24年度61.1%と減少し、現在、薬剤局にとっては薬剤師職員の確保が重要な課題となっています。昨年4月の診療報酬改定により病棟薬剤業務実施加算が新設されましたが、当院においては残念ながらマンパワー不足のためこの業務の実施には至っていません。病棟薬剤業務は、病院勤務医等の負担軽減および薬物療法の有効性、安全性の向上に資する薬剤関連業務として位置づけられ、「主に投薬前の患者に対する業務」として、持参薬や院内処方の確認、医薬品の情報の提供、管理に関する業務、他の医療スタッフとの連携等により、薬物療法を事前にチェックし、最終的には投薬計画を提案することを主体としています。当院で実施している薬剤管理指導業務は、これらの病棟薬剤業務を含めて包括的に行っており、対象病棟の患者さん全て（実施率100%）に行えれば病棟薬剤業務実施加算の算定も可能となると考えています。

抗がん剤注射の無菌調製実施率は、薬剤師が抗がん剤注射の無菌的調製を行った割合を示したもので、平成24年度も外来が98.5%、入院が95.9%と高い値を維持しています。この抗がん剤注射の無菌調製業務は、単なる混合調製だけでなく、投与量・方法、投与スケジュールや休薬期間の確保などの注射処方内容を薬剤師が厳重に監査し、抗がん剤の被爆防止や無菌性を確保するために細心の注意を払って行う業務であり、薬剤局においては多くの労力と時間を要する業務になっています。

抗MRSA薬のTDM(Therapeutic Drug Monitoring)実施率は、主に入院患者さんの MRSA 感染等に使用された注射用抗 MRSA 薬（バンコマイシン、テイコプラニン、アルベカシン）の血中濃度測定により薬剤師が直接投与設計を行った割合を示したものです。実施率は僅かですが平成24年度は上昇し80%でした。医師への啓発や薬剤師の休日勤務体制等の課題もありますが、実施率100%を目指して全ての入院患者さんに抗 MRSA 薬の TDM による薬物療法の支援を行っていく必要があると考えています。

表の6番目の指標に各種資格取得人数を挙げています。薬剤局では薬剤師の専門性を高めるために、様々な研修や学会活動に参加するよう職場を挙げて取り組んでいます。平成 24 年度は、日本静脈経腸栄養学会サポートチーム専門薬剤師の資格継続が1名でした。今後も取得者の継続や新規取得者の拡大等、質の高い薬物療法を実践していきたいと考えています。

薬剤局「薬学的管理の質」インディケーター2013

指標番号	指標名称	H22	H23	H24	算出単位	分子 / 分母および備考
薬剤1	薬剤管理指導実施件数（件）	17377	17303	16374	年度	分子:—　分母:— 備考:入院患者への医薬品の適正使用と安全管理に対する薬剤師の貢献度としての指標。
薬剤2	薬剤管理指導実施率（%）	65.9	67.1	61.1	年度	分子:実施実患者数　分母:全入院実患者数 備考:入院患者への医薬品の適正使用と安全管理に対する薬剤師の貢献度としての指標。
薬剤3	外来における抗がん剤注射の無菌調製実施率（%）	97.6	99.6	98.5	年度	分子:抗がん剤注射の無菌調製件数 分母:全外来抗がん剤注射処方件数 備考:抗がん剤の安全使用に関する指標。
薬剤4	入院における抗がん剤注射の無菌調製実施率（%）	93.5	91.9	95.9	年度	分子:抗がん剤注射の無菌調製件数 分母:全外来抗がん剤注射処方件数 備考:抗がん剤の安全使用に関する指標。
薬剤5	抗MRSA薬の治療薬物モニタリング（TDM）実施率（%）	71.9	79.9	80.0	年度	分子:抗MRSA薬血中濃度測定患者数 分母:抗MRSA薬投与患者数 備考:抗MRSA薬の適正使用に関する指標。
薬剤6	薬剤局に関連する各種認定資格取得者数（延べ人数）	17	17	17	年度	分子:—　分母:— 備考:特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、薬剤師による薬物療法への支援業務の質が向上する。

各種資格取得人数内訳	H22	H23	H24	各種資格取得人数内訳	H22	H23	H24
日本医療薬学会指導薬剤師	1	−	−	日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師	1	1	1
日本医療薬学会認定薬剤師	1	−	−	日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師	2	2	2
日本薬剤師研修センター認定実務指導薬剤師	3	5	5	日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門薬剤師	2	2	2
日本病院薬剤師会認定指導薬剤師	3	3	3	日本臨床救急医学会救急認定薬剤師	2	2	2
日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師	2	2	2				

看護局における「医療の資質向上への取り組み」について　看護局　寺岡美千代

看護局では、2008年に「看護の質評価指標」6項目を規定し、これらを改善、向上する取り組みを進めてきました。2011年度には質評価指標（ナーシング・インディケーター）を 28 項目にし、2012年度からは看護局内に「看護の質評価委員会」を設置、指標の洗練化と規定した指標データを「改善目標としてのデータ」と位置付け、PDCA サイクルを実践するための根拠として、データ収集と分析結果のフィードバックを行っています。

また、2012 年度からは「看護の質指標を用いたデータベースによるベンチマークシステムの試行調査事業」にも参加し、データ収集、ベンチマークとデータ分析、部署へのフィードバックを行い看護ケアの質向上に取り組んでいます。

当センターの看護の質については、看護の質評価委員会が中心となり、規定した指標の洗練化とデータ分析、国内外の看護の質向上に関する取り組みや動向をモニタリングしています。今回は、6 つの指標データ（2012 年度）を報告させて頂きます。①「各種資格取得人数」は、一定の専門性が証明された資格を有する者を資格取得者と位置付けました。②「経験年数 5 年以上の看護師の占める割合」は、一般的に経験 5 年以上の看護師はジェネラリストとしての臨床実践能力を備えている、③「男性看護師割合」は看護の専門職性を向上させるための取り組み推進、④「新卒新人看護師 3 年定着率」は、臨床看護師研修制度の充実が新人看護師の自信と意欲を向上させ、病院全体で新人看護師を育てている、⑤「多職種カンファレンス」は、チーム医療の実施状況を示している、⑥「デスカンファレンス実施率」は、家族および職員のグリーフケアが行われた割合を示す、との考えに基づいています。

新たな動向として、日本看護協会は看護の質向上に向けて看護実践をデータ化し、看護業務やマネジメントの改善に結びつけるための手段とすることを目的に、2005 年から「労働と看護の質向上のためのデータベース事業」1）2）に取り組んできました。本事業は、DiNQL（Database for improvement of Nursing Quality and Labor ディンクル）の事業愛称でアナウンスされ、2012 年度には DiNQL で扱う 132 の評価指標を策定、2013 年度は急性期病院の一般病床 75 病院 273 病棟を対象に試行事業を実施しています。そして、2014 年度からスタートの予定になっています。

看護局でも、本事業への参加について検討しましたが、看護局独自のナーシング・インディケータで質評価に取り組んでいること、昨年度より「看護の質指標を用いたデータベースによるベンチマークシステムの試行調査事業」に参加しベンチマークしていることなどから、本年度の参加は見送っております。今後、当センターのナーシング・インディケータ、および二つの試行事業の動向を見ながら、当センターの「看護の質評価指標」を洗練化していきたいと考えております。

［参考文献］1）日本看護協会 http://www.nurse.or.jp/nursing/database/gaiyo/index.html（2013 年 10 月 14 日閲覧） 2）日本看護協会：DiNQL 労働と看護の質向上のためのデータベース事業第 1 版，平成 25 年 8 月

看護局「看護の質」インディケーター2013

指標番号	指標名称	H22	H23	H24	算出単位	分子 / 分母および備考
看護1	各種専門領域認定資格取得者数（延べ人数）	91	118	97	年度	分子:各種専門領域認定資格取得者数　分母:ー 備考:特定の専門領域の認定資格取得や研修修了者数は看護ケアの質に影響する。
看護2	経験年数5年以上の看護師の締める割合（%）	69.4	69.31	71.7	年度	分子:経験年数5年以上の正規看護師数　分母:看護師（正規職員）数 備考:一般的に経験年数5年以上の看護師はジェネラリストとして臨床診断能力や実践能力を備えている。
看護3	男性看護師割合（%）	6.0	7.2	6.6	年度	分子:正規男性看護師数　分母:看護師（正規職員）数 備考:男性看護師と女性看護師の考え方（視点）、性差は看護の質に影響する。
看護4	新卒新人看護師3年定着率（%）	83.3	78.6	86.4	年度	分子:3年前の4月1日採用の新卒新人看護師のうち、データ抽出時点で勤務継続している看護師数（4月1日を起点とする） 分母:3年前の4月1日採用の新卒新人看護師 備考:臨床経験3年目は、クリニカルラダーレベルⅡに到達し日常的な看護実践がほぼ単独で実践できる。医療チームの一員として役割を遂行できる看護師の確保は看護の質向上に繋がる。
看護5	（部署別）多職種カンファレンス件数	ー	1024	1577	年度	分子:実施件数　分母:ー 備考:チーム医療の実施状況を示すとともに、「多職種を交えて、効果的にカンファレンスが行われることが患者のニーズに沿ったケアやチームメンバー間の関係性の向上に結びつく」といわれており、協働を促進し共通の患者目標を持つことでケアの質が向上する。
看護6	部署別デスカンファレンス実施率（%）	ー	6.3	10.8	年度	分子:デスカンファレンス件数　分母:死亡退院患者数 備考:家族および職員のグリーフケアが行われた割合を示す。

各種資格取得人数内訳	H22	H23	H24	各種資格取得人数内訳	H22	H23	H24
がん看護専門看護師	2	2	2	呼吸療法士	15	13	14
小児看護専門看護師	1	1	1	消化器内視鏡技師	13	12	10
精神看護専門看護師	ー	1	ー	リンパ浮腫指導技能者	3	3	2
老人看護専門看護師	ー	1	1	心臓リハビリテーション指導士	6	6	6
母性看護専門看護師	ー	ー	1	日本癌治療学会認定データマネージャ	ー	5	4
皮膚排泄ケア認定看護師	1	1	3	栄養サポートチーム専門療養士	ー	2	7
感染管理認定看護師	1	1	2	高知県臓器移植院内コーディネーター	ー	3	1
集中ケア認定看護師	2	2	2	日本褥瘡学会認定師	ー	ー	1
救急看護認定看護師	3	3	3	日本口腔ケア学会4級認定者	ー	ー	2
不妊症看護認定看護師	2	2	1	ICLS　インストラクター	ー	ー	8
新生児集中ケア認定看護師	ー	ー	1	JPTEC　インストラクター	ー	ー	1
脳卒中リハビリテーション認定看護師	ー	ー	1	新生児蘇生法「専門」コース・インストラクター	ー	ー	1
日本看護協会認定看護管理者	ー	3	4	第一種衛生管理者	ー	ー	2
日本糖尿病療養指導士	5	5	4	プラクティカルCTG判読スペシャリスト	ー	ー	2
IVR看護師	9	9	9	アロマテラピー検定1級	ー	ー	1

医療技術局における「医療の資質向上への取り組み」について　医療技術局長　楠目雅彦

医療技術局は、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、言語聴覚士、視能訓練士と現状７職種から構成され、治療や検査に専門技術を提供しています。
検査時間や結果報告時間の時間の短縮、CT 再構築 3D 画像などの最先端の検査結果の提供、常に正確で安定した検査・治療の提供等、良質な専門技術を提供するためには、各職種の専門技術の向上や品質管理、検査・治療の安全向上が医療技術局の医療の質向上と考えられます。
専門技術の向上への取り組みとしては、各職種の平均技術力の底上や新しい技術の取入れのため、勉強会・カンファレンスに加え、学術集会・院外講習会へ参加の推進を行い、最新知識の取得やモチベーションアップを図ると共に、各種専門技術の認定資格取得を推進しています。今年度は３名増え 16 種類 30 名が各種認定資格を取得し各専門分野に大きな役割を果たしています。
また、安全の質を保ち、常に正確で安定した検査・治療をおこなうために、多くの部署で使用する医療機器が正常に作動しているか、日常・定期に医療機器点検を行い医療機器の品質管理を行うと共に、検査・治療の院内定期精度管理に加え外部機関の精度管理による品質管理を行い、また、ＭＲＩ検査や放射線障害などの危険な場所での入室訓練や研修会を行い、安全で正確で確実な検査・治療を行えるように取り組んでいます。今後、各業務の安全の質の向上をめざし、安全の質管理を検討していきたい。

医療技術局「医療技術の質」インディケーター2013

指標番号	指標名称	H22	H23	H24	算出単位	分子 / 分母および備考
医技1	MRI検査室への持込禁止物によるアクシデント発生率（%）	0. 00	0. 04	0. 03	年度	**分子:**持込禁止物の持込によるアクシデント発生件数 **分母:**MRI検査実施件数 **備考:**MRI検査では持込禁止物を持ち込みにより、強力磁石による吸着事故、高周波による火傷等の重大事故につながる。MRI検査の安全性を評価する目的で、持込禁止物によるアクシデント発生率を指標とした。H24年度の分母は8,047件、分子は2件。（体温計、車いす）
医技2	外来検体検査の報告に要した時間（分）	13	18	12	年度	**分子:**ガス、生化学、血糖、CBC、凝固、尿の報告時間の統計 **分母:**ガス、生化学、血糖、CBC、凝固、尿の件数 **備考:**報告時間は、検体が検体検査室受付登録から、結果が電子カルテに送信されるまでの平均時間。H24年度の項目別報告時間は血液ガス2分、生化学27分、血糖11分、CBC6分、凝固19分、尿7分。
医技3	病理迅速検査件数（件）	423	404	383	年度	**分子:**組織診･細胞診の迅速検査件数　**分母:**ー
医技4	各種認定資格取得者数（延べ人数）	25	27	30	年度	**分子:**各種専門領域認定資格取得者数　**分母:**ー **備考:**各分野の専門技術の質が向上する

各種資格取得人数内訳	H22	H23	H24	各種資格取得人数内訳	H22	H23	H24
細胞検査士	2	2	2	心臓リハビリテーション指導士	2	2	3
認定臨床エンブリオロジスト	2	2	2	核医学専門技師	2	2	1
超音波検査士（血管領域）	2	2	1	放射線治療専門放射線技師	1	1	1
超音波検査士（循環器）	3	3	3	放射線治療品質管理士	1	1	1
超音波検査士（消化器）	1	1	1	検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師	3	4	5
輸血検査技師	1	1	2	救急撮影技師	0	1	1
認定HLA検査技術者	1	1	1	放射線管理士	1	1	1
認定心電検査技師	2	2	4	医療機器情報コミュニケータ（MDIC）	1	1	1

栄養局における「医療の資質向上への取り組み」について　栄養局長　渡邊慶子

当院は開院以来、全国に先駆け各フロアに管理栄養士を常駐させ、医師、看護師、薬剤師等とチーム医療による臨床栄養管理を実践してきました。医師が実施する治療を効果的に進めるためには、適切な栄養評価と栄養管理が極めて重要であるとの認識は、当院でも既に浸透しています。特に管理栄養士は、NST（栄養サポートチーム）の中心的存在としての活動が定着しています。管理栄養士が専門性を生かし、適正な栄養評価を行うためには常にスキルアップが必要となってきますが、栄養局では、管理栄養士は専門領域の認定資格取得を目的として、積極的に学会発表や研修会に参加し、自己

研鑽に努めています。その結果、平成23年度の認定取得者数5から、平成24年度は7名に増加し、栄養局のレベルアップが図られています。

次に管理栄養士が行う医療業務の一つに治療食の必要な患者さんへの、栄養食事指導の実施があります。基本的に、医師の指示により栄養食事指導を実施しますが、管理栄養士は病状や臨床検査データの推移をみて、専門的な立場からの指導の必要性を判断し、医師に提案し積極的に取り組んでいます。栄養食事指導を実施することで、治療効果が期待でき、退院後の生活習慣改善など医療の質向上につながると考え、治療食加算対象患者さんに対しての栄養指導実施率を評価指標としています。平成24年度は栄養指導実施率が、平成23年度に比較して2.6%増加となっており、質の向上につながっています。

今後は食事摂取率、栄養状態の改善、感染症抑制による抗菌薬の削減、在院日数の削減等アウトカム評価などを検討し、栄養管理における医療の質評価としてのグレードを高めていくことが必要と考えています。

栄養局「臨床栄養管理の質」インディケーター2013

指標番号	指標名称	H22	H23	H24	算出単位	分子 / 分母および備考
栄養1	治療食加算対象患者に対する栄養指導実施率(%)	19.7	35.0	37.6	年度	分子:個人・集団栄養指導の実施件数 分母:治療食加算対象患者数
栄養2	栄養局に関連する各種認定資格取得者数(延べ人数)	5	5	7	年度	分子:— 分母:— 備考:特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、管理栄養士による栄養管理および栄養治療の質が向上する。

栄養2 各種資格取得人数内訳	H22	H23	H24
糖尿病療養指導士(日本糖尿病療養指導士認定機構)	3	2	3
栄養サポートチーム(NST)専門管理栄養士(日本静脈経腸栄養学会認定)	1	1	1
TNT-D認定管理栄養士(日本栄養士会認定)	1	2	3

事務局における「医療の資質向上への取り組み」について　事務局長　松井成起

事務局における医療の質向上への取組については、事務局が基本方針としています「病院経営の効率化に努め、良質な医療の提供ができる医療環境の実現を目指す」ことで貢献できると考えます。

事務局が担当する業務範囲は相当広いのですが、行政職や診療情報管理士、医療ソーシャルワーカーなどの職種で事務に携わり、さらに業務委託を行い、受付業務や警備、清掃等の業務をカバーしております。事務局の医療の質の指標としましては、昨年に引き続き、診療報酬請求業務の精度を示す査定率・返戻率、また、専門領域の認定資格取得者数を掲載いたしました。

当院の施設につきましては、建設以来10年が経過しようとしております。このため、これから維持補修経費等の増加が想定されますことから安定的な財政運営を図っていくためにも、今後、大規模修繕も視野に入れた対応を検討してまいりたいと考えております。

事務局「医療事務管理の質」インディケーター2013

指標番号	指標名称	H22	H23	H24	算出単位	分子 / 分母および備考
事務1	診療報酬請求業務の精度向上(査定率%)	0.27	0.33	0.41	年度	分子:保険請求に係るレセプトの総減点点数 分母:保険請求に係る請求レセプトの総点数
事務2	診療報酬請求業務の精度向上(返戻率%)	1.37	1.34	1.74	年度	分子:保険請求に係る返戻レセプトの件数 分母:保険請求に係る請求レセプトの件数
事務3	事務局に関連する各種認定資格取得者数(延べ人数)	13	18	29	年度	分子:— 分母:— 備考:特定の専門領域の認定資格取得者の人数により、事務職による医療事務の質が向上する。

事務3 各種資格取得人数内訳	H22	H23	H24
診療情報管理士	3	5	10
医療情報技師	2	2	5
社会福祉士	5	7	9
精神保健福祉士	3	4	5

日本急性血液浄化学会認定の指導者(128号)に認定されました。

臨床工学科　岡田 恒典 技士

臨床工学科　岡田 恒典 技士

臨床工学科の岡田と申します。この度、高知で初めて日本急性血液浄化学会認定の指導者（128号）に認定されました。よって、高知医療センター集中治療科が高知県唯一の日本急性血液浄化学会認定指定施設（第24号）となりましたのでご報告させていただきます。

この日本急性血液浄化学会は、麻酔科医、集中治療医、救急救命医、外科医、腎臓内科医、小児科医、臨床工学技士（以下 CE ）など幅広い分野の専門家で構成されている学会で、血液浄化に関係する人々の知識、技術を向上させ安全と充実を図ることを目的としています。大きな特徴として、昔から CE が装置や回路などのデバイス開発を行い分野の発展に大きく貢献してきたことからか学会役員として多くの CE が医師と同じくしてご活躍されています。その為か、指導者は CE も医師と同じ審査を受けるようになっています。

急性血液浄化法とは、救急・集中治療領域で行う血液浄化法の事を言いますが、この領域では多臓器不全、あるいはその一病態としての急性腎不全が多くみられます。その場合、薬剤や栄養投与のための水分スペースの確保がとても重要となります。しかし、循環動態や呼吸状態が不安定な場合が多く通常の血液透析を施行できず、そのままだと各臓器障害が進行していってしまいます。この臓器障害スパイラルを防ぐ為に、持続血液ろ過透析（CHDF）、エンドトキシン吸着（PMX-DHP）、血漿交換療法（PE）などの急性血液浄化法を行い輸液スペースの確保、有害物質の除去、電解質・酸塩基平衡の調節をして臓器サポートを行い。病態回復へ導く事が急性血液浄化法の重要な役割となっており、この領域では必要不可欠な治療法となっています。

高知医療センターでは、年間約 900 件の急性血液浄化法を行っており、これは中四国トップレベルの症例数です。また、基幹病院であり重篤な患者さんを受け入れているという事で、細かなノウハウの必要な小児症例。CHDF+PMX-DHP の同時施行が必要な敗血症ショックや CHDF+PE 同時施行が必要な肝不全など技術的に難易度が高い血液浄化法を積極的に取り組んでいます。これらを、安全に確実に行ってきたことも大きな実績となっています。

臨床工学科は、難波先生のご指導のもと「安全、確実」を目標に 24 時間、365 日業務を行っています。また、医師、看護師さんへの定期的な勉強会だけでなく、同時施行用オリジナル回路の作成などの独自の技術開発や、学会や勉強会へ積極的に発表や参加をして他施設との交流を行い、最新の知識を吸収してベストな技術が提供できるよう努力しております。

われわれは、日常業務の中で一番大切なのは業種間のコミュニケーションであり、お互いが連絡、相談をし合える関係を築き続ける事が治療の安全と充実を図るうえで重要な事だと考えています。

今後は、認定指定施設の名に恥じないよう技術、知識を磨くのはもちろんですが、この分野以外でも生命維持監視装置の専門家として、病院全体がいつでも安心して業務ができる環境を目指し、全員で前に進んでいきたいと思います。

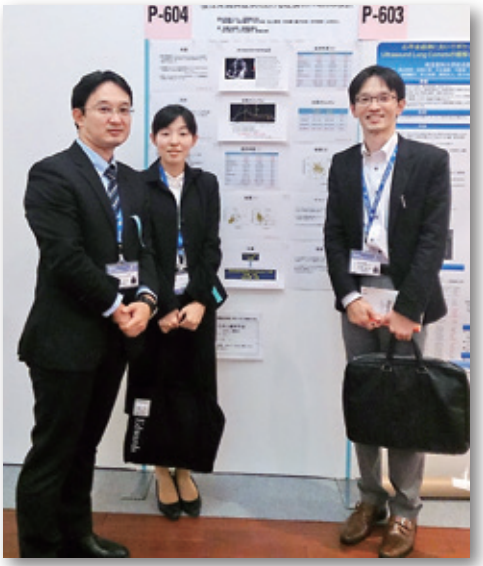
ＣＥ会議後の一枚

学会出張報告

第61回 日本心臓病学会学術集会in熊本

平成25年9月20日～22日

循環器内科 福岡 陽子 医師

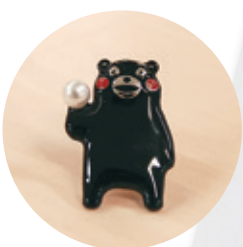


写真右より：（上司）尾原義和医師、福岡陽子医師、高知赤十字病院 濵田知幸先生

第 61 回日本心臓病学会学術集会が平成 25 年 9 月 20 日から 22 日まで熊本市で開催されました。今回、上司より発表の機会をいただき、参加してきました。

私は、日常臨床のなかでも心エコーが好きで、特に心臓弁膜症に興味を持っています。弁膜症治療は近年、低侵襲化が進み、脚光を浴びている分野です。治験が終了した重症大動脈弁狭窄症に対する経皮的大動脈弁置換術（TAVI）をはじめ、近い将来、日本でも導入が期待される僧帽弁閉鎖不全症に対するカテーテル治療（Mitral Clip）、小切開手術（MICS 法）による僧帽弁形成術などの講演がたくさんあり、非常に興味深く拝聴しました。そのなかで、内科医と外科医、麻酔科医ほか多くのコメディカルスタッフの連携、「Heart Team」の重要性が論じられていました。心エコーは弁膜症治療の評価に大きな役割を果たしており、今後の臨床で貢献できるように、さらに力を入れて勉強していきたいと意欲が湧きました。

22日は自分のポスター発表でした。慢性腎臓病症例における左房 stiffness を心房ストレインという心エコーの手法を用いて検討した研究で、慢性腎臓病症例では非常に初期の段階から左房機能が低下していることを報告しました。臨床研究の発表は初めてで、あまりの緊張で何が何やらの６分間でしたが、安堵感と達成感に浸りながら、熊本を後にしました。後日談として、学会本部より郵便が届きました。中身はなんと、Poster Award に選ばれたとの報告でした！これも乗り気でない私を見捨てずに指導してくださった上司のおかげです。この場をお借りしてお礼申し上げます。



表彰状

Poster Award

福岡陽子殿

貴殿の発表（P-604）は
第61回日本心臓病学会学術集会
において優秀演題に選ばれましたので
その栄誉をたたえ今後の研究のさらなる発展
を祈念してここに表彰いたします

平成25年9月22日

第61回日本心臓病学会学術集会
会長 小川久雄

表彰状と開催地熊本のご当地キャラクター
くまモンのピンバッチを頂きました。

高知医療センター　イベント情報　11月～

3 日

高知医療センター　看護局集合研修　他施設公開研修プログラム（事前申込要）

研修名	ナーシングバイオメカニクスに基づく生活支援技術セミナー	講師	筑波大学名誉教授　紙屋 克子氏
場所	高知医療センター 2F くろしおホール	時間	9：00 ～ 11：00

お問い合わせ：高知医療センター・看護局 教育担当　　申込先 FAX：088（８３７）6766

8 金

胸部疾患研究会特別講演

内容	胸部疾患に対する画像診断 - 実地臨床のレベルアップに向けて - 単純写真を中心として	講師	香川県立保健医療大学副学長　看護学科教授　佐藤 功氏
		座長	高知医療センター　呼吸器外科　科長　岡本 卓氏
場所	ラ・ヴィータ　8F　ラ・ヴィータホール	時間	18：45 ～

お問い合わせ：高知医療センター・呼吸器内科（浦田）　TEL：088（837）3000（代）
共催：高知県胸部疾患研究会、第一三共株式会社　後援：高知県医師会

13 水

高知医療センター　看護局集合研修　他施設公開研修プログラム（事前申込要）

研修名	せん妄状態の患者の看護	講師	こころのケアサポートチーム
場所	高知医療センター 1Ｆ 研修室 2,3	時間	18：00 ～ 19：30

お問い合わせ：高知医療センター・看護局 教育担当　申込先 FAX：088（８３７）6766

16 土

高知医療センター　看護局集合研修　他施設公開研修プログラム（事前申込要）

研修名	口腔ケア②	講師	愛媛大学医学部附属病院　摂食・嚥下障害看護認定看護師　藤井 智恵氏
場所	高知医療センター 1Ｆ 研修室 2,3	時間	13：00 ～ 16：00

お問い合わせ：高知医療センター・看護局 教育担当　　申込先 FAX：088（８３７）6766

16 土

第６回高知医療センター日本集中治療学会認定集中治療専門医養成セミナー
重症熱性血小板減少症候群（SFTS）講演会（参加費不要、事前申込不要）

講師	国立国際医療研究センター　加藤 康幸氏		国立感染症研究所ウイルス第一部　下島 昌幸氏
場所	高知医療センター 2F くろしおホール	時間	14：00 ～ 16：30

お問い合わせ：高知医療センター・経営企画課

17 日

高知医療センター　看護局集合研修　他施設公開研修プログラム（事前申込要）

研修名	アサーティブ・コミュニケーション	講師	えな・ヒューマンサポート　森川早苗氏（臨床心理士）
場所	高知医療センター 1Ｆ 研修室 3	時間	9：00 ～ 16：00

お問い合わせ：高知医療センター・看護局 教育担当　申込先 FAX：088（８３７）6766

17 日

高新・高知医療センターがんセミナー・2013（参加費要、事前申込要）

内容	「骨・軟骨腫瘍について」	講師	高知医療センター　整形外科　副医長　沼本 邦彦氏		
場所	高知新聞放送会館　東館8F　81号	時間	10：00 ～ 12：00	対象	一般（70 名）

主催：高知新聞社、高知医療センター　協賛：アフラック高知支社　主管：高新文化教室
お問い合わせ：高新文化教室　TEL：088（825）4322　（受講料 9600 円 / 全 12 回、1500 円 /1 回）

20 水

高知医療センター　看護局集合研修　他施設公開研修プログラム（事前申込要）

研修名	スキンケア3	講師	皮膚・排泄ケア認定看護師
	高知医療センター 1Ｆ 研修室 1,2		18：00 ～ 19：30

お問い合わせ：高知医療センター・看護局 教育担当

30 土

申込先 FAX：088（８３７）6766**第３１回地域医療連携研修会**（参加費不要、事前申込不要）

内容	講演１　痛みを和らげる漢方薬	講師	高知医療センター　ペインクリニック科　科長　青野 寛氏
	講演２　漢方薬をうまく使うために		高知医療センター　薬剤師　藤澤 康代氏
場所	高知医療センター 2F くろしおホール	時間	14：00 ～ 15：40

お問い合わせ：高知医療センター・地域医療連携室（井上・早瀬）

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

編集後記

今年の４月に統括調整監兼事務局長を拝命しました松井成起と申します。病院勤務は初めてでして、半年が経過しましたが、責任の重さを感じております。高知医療センターは、全国でも初めての県と市の中核病院同士が統合した病院であり、大きな責務を担っております。連年の黒字の見込みですが、依然として脆弱な経営基盤であり、より一層の効率的な運営・管理を行い、医療現場を支えてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いします。（事務局　局長：松井成起）

平成25年11月1日発行
にじ　１１月号（第９７号）
責任者：武田　明雄
編集人：地域医療連携広報委員
　　特別編集委員
発行元：地域医療センター
　　地域医療連携本部
印　刷：株式会社高陽堂印刷
高知県・高知市病院企業団立
高知医療センター
〒781-8555　高知県高知市池2125-1
ＴＥＬ：088（837）3000（代）

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp
Kochi Health Sciences Center Home Page : http://www.khsc.or.jp/